

(※) 小学校1校は、西中学校を改修し使用。ただし、国の補助金を受け平成27年に改築したもので、小学校への転用が、令和7年度以降でなければ補助金を返還することになります。

学校再編そのものが「未来への まちづくり」

答申では、小学校2校・中学校1校の再編統合に向け準備し、小学校は令和8年度から9年度(※)、中学校は令和7年度開校を想定しています。

— 小川町の学校未来図 —



2年間の審議の過程で、台風19号による大規模な被害、終息の見えないコロナ感染症への対応が求められGIGAスクール構想が進みました。あらゆる視点から「未来の学校の姿」を深掘りする必要があります。

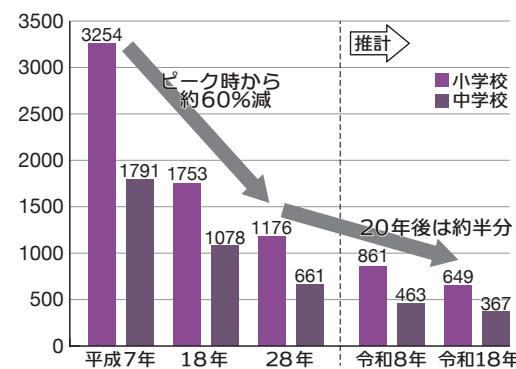


背景・現状

- ① 児童生徒数の減少
平成30年から出生数は100人を切る
- ② 公共施設の老朽化
町全体の公共施設面積を令和27年までに40%削減する計画がある
- ③ 学習環境の整備
適正規模の学校へ再編整備が必要
- ④ 財政負担の軽減
予算を集中して学校環境の整備

児童生徒数の推移・推計

児童生徒数は平成7年の5045人をピークに減少を続けています。



児童数減少グラフには、驚きと寂しさが募るばかりです。学校再編でいずれ近くの竹沢小もなくなるとのこと。小規模校ならではの、皆兄弟同然に仲良く成長し、優しい竹小っ子たちの登下校での元気な声が聞かれなくなってしまう、ただただ寂しいです。
利根川伸子さん(教員)



学校再編は、町民にとっても「魅力ある学校」を創造していく過程です。ふるさとに誇りを持ち世界に羽ばたく人材を育てる場づくりです。



知る・考える

巻頭特集

教育は百年の計

学校再編等審議会

最終答申を読み解く



昭和30年の町村合併以来初の大きな学校再編が進められようとしています。小川町の将来の姿が変わる可能性があります。

答申の詳しい内容はこちら→
町ホームページ「町立小中学校の長期再編計画(答申)」について

